

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 千葉県 】

1 実践テーマ	【 I・III・V 】
2 実施対象者	学校名 : 千葉市立幕張西中学校 対象学年 : 2学年 クラス(人数): A/B/C/D/E組(90人)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名(体育科・ <u>保健体育科</u>) ② 行事名() ③ その他() (2) 地域における活動 ① イベント名() ② その他()
4 目標 (ねらい)	モデル校での実践等を通して、体育・保健体育の学習を充実させ、子供たちが、よりスポーツを好きになり、生涯にわたって運動に親しむ資質を育むこと、健康の保持増進のための実戦力の育成と体力の向上を図ることを目的とする。
5 取組内容	通常のバレーボールを8時間、シットイングバレーボールを5時間で行う。 1時間目：パラリンピック、シットイングバレーボールについて理解を深める。座った状態で動いたり、ボールを操作したりできるようにする。 2時間目：座った状態で体を動かすことができる。座って手や足を使って進む練習、アンダー・オーバーハンドパスの練習。 3時間目：ボールをつないで、相手コートに返球する練習。 4～5時間目：チーム対抗の試合を行う。
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・シットイングバレーボールを通じて、東京オリンピック、パラリンピックに興味をもつ生徒が増えた。 ・座った状態でのボール操作に慣れていないので、仲間と意見を交換しながら技能向上に努める場面がより増えた。

<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • シットイングバレーボールの映像を見せることで、イメージが付きやすいようにした。 • ソフトバレーボールを使用し、ボールが上に上がりやすくし、ボールの滞空時間が長くなるようにした。 • 通常のネットよりも高くし(バドミントンのネット高)、ボールを上を上げさせるようにした。 • バドミントンコートを使用し、生徒でも準備ができるようにした。 • バレーボールの授業の後に行い、技能が高まった状態で行うようにした。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 運動量の確保は難しいと感じた。 • より運動技能による差が大きくなると感じた。 • ルールやコートの工夫をしたが、変更し過ぎると本来のシットイングバレーボールから離れてしまう心配がある。 • 「関心をもつ」「楽しむ」という観点から考えると評価しづらい。評価するためには、ある程度、時間数を確保し、技能を向上させないと体育の実技教科としては成り立たないのではないかと感じた。 • バレーボールの単元の中で扱ったため、バレーボールそのものにかかる時間は減ってしまった。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>今の所、実施予定なし。来年度の他単元との関わりで検討。</p>